

4

令和2年

心の生涯学習誌
れいろう



〈れいろうカレッジ〉 今月のテーマ

この春、もっと幸せになる!

松浦映子

モラロジー研究所 生涯学習講師

前野隆司

一般社団法人ウェルビーイングデザイン
代表理事

〈思春期の処方箋〉

いじめ発生、

そのとき親にできることは?

花まる学習会 箕浦健治

思春期の処方箋



4



みのうらけんじ
花まる学習会 野外体験部 部長 箕浦健治

昭和48(1973)年、大阪府堺市生まれ。野外体験部部長として、延べ7万人の子どもの命を預かり、「自然の中で過ごす」上での学びに注力するだけでなく、「親との連絡一切禁止」「友だち同士の参加禁止」という新しい切り口から「ミニ社会」経験を積ませることで、将来社会に出て「メシが食える大人」を育てている。「ファイヤー」の愛称で親生まれ、その名のとおり、熱い背中で子どもを引っ張っている。著書に『4歳～9歳で生きる基礎力が決まる! 花まる学習会式 1人でできる子の育て方』(日本実業出版社)。

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが、心の処方箋をお届けします。

絶対の処方箋がない、いじめ。

「いつでもあなたの味方だよ」という親のまなざしが支えです。

た。私は、「いいじゃない、おまえは間違っていないんだから。必ず道は開けるから」とだけ言いました。

翌日、娘は学校に行きました。「どんな自分も拒否せずに受け入れてもらえらる」という親への安心感が、いじめによってしぼんだ心を満たし、いじめを克服する支えになると感じました。

普通の親子の会話は肯定から入る

多くの場合、子どもは「いじめ」にあって、いることを親に知られたくないと思っています。心配をかけたくない、友だちとのことだから自分の力で解決したいなど、その想いはさまざまです。でも、たいていの場合、親には分かっています。分かってしまうと、「どうしたの? 何かあった? いじめられているの?」と問いただしたくなります。しかし、親がすべきことはいじめを事件化することではなく、「あなたのことを愛しているよ、信じているよ」とわが子に伝え続けることです。「おかえりなさい」と笑顔で迎えてあげる、好

きなごはんをつくってあげる、「いつも頑張っているね」とストリートに認める声かけをするのもよいでしょう。

また、普段から子どもの話は「否定」ではなく「肯定」から入りましょう。ある生徒が言っていました。「うちの親は嘘みたいな話でも、いつも『そうなの、へえ』って言ってくれる。そのたびに信じられていって思うから、裏切るようなことなんてできない」と。

悪をつくらない

いじめられる子がいるということは、同数かそれ以上に「いじめられる子」がいるということです。

わが子が「いじめられる側」であると考えただけで、親としてはなんとも言えない衝撃です。もしそうなったとき、親の態度として大切なのは、「事実」を正しく把握すること。そして、わが子の「人格」を否定しないことです。

例えば、わが子が友だちの靴を隠したとしましょう。「靴を隠した」ことが事実で、その行為自体は「悪いこと」です。正すべきはその「行為」だけで、

「親は味方」という安心感が心を強くする

花まる学習会の野外体験部部長として、延べ7万人の子どもたちを預かる中で、初めて会った子同士が、まるできょうだいのような関係になり、そこで生じる自我のぶつかり合いを数多く見てきました。子どもの社会で、子どもたちがどのような想いを抱え、どう立ち向かっていくのか、自身の経験を踏まえながらお伝えします。

私の娘が中学一年生のころのことです。いつも楽しく学校に通っていたのに、三日間連続で頭痛や腹痛を訴え、行きたがりません。

おかしいと思った私は、娘に「行かなくていいよ」と伝え、「何かあった?」とだけ聞きました。無理に問いただすことはせず、私も会社を休み、いつもの休日のように過ごしました。

するとしばらくして、娘が「いじめにあっている」とポツリポツリと話をしてくれました。同級生をいじめていた子に、「そういうのはよくない」と言ったことで、標的が娘に移ったようでした。

「おまえはダメなやつだ」などと人格を否定するようなことを言うてはいけません。「いじめといわれる行為」をしてしまったことには、なんらかの理由があるはずですが、先に意地悪をされたとか、ストレスがかかる状況にあり、精神的に追い込まれていたのかもしれない。

人格否定の先に、子どもが「前向き」になることはありません。「親にまで裏切られた」と思う子もいるでしょう。

私は、娘がいじめにあったときに、いじめた子を「ひどい子だね」と否定することはせず、「おまえは、そういうことをしなければいい」とだけ伝えました。「あの子は悪い子だから」といった「悪をつくる」感情は心を縛り、自分に向き合うこともできなくします。

でも、「私はしないようにしよう」と思えた瞬間に、意識は他者から自己へと向き、「自分にも、いけないところはなかったらどうか」と振り返ることができるようになるのです。そういった経験の積み重ねによって、誰かのせいでも何かのせいでもない、豊かな「自分の人生」を歩めることでしよう。

